令和７年度 獨協医科大学大学院医学研究科入学者選抜試験（２次募集）
専攻科目試験　先端外科学（麻酔科）

・意図

［設問１］

麻酔の基本である鎮静のモニターでBISモニターの原理と測定意義を理解しているかを評価の目的としている。実際の臨床で、過度の鎮静や術中覚醒を防ぐ意味で、深すぎる麻酔や浅すぎる麻酔を避け、適切な麻酔濃度、量を調整することで、より患者の安全が確保できる。

［設問２］

全身麻酔とは異なり、患者の意識下で施行する脊髄くも膜下麻酔の合併症を十分に理解は、患者に対する適応や非適応（禁忌）に関連するものであり、評価の目的としている。解答として、術前の説明として最も必須である頭痛の記載がない場合は、今回は減点の対象とした。

・解答

［設問１］

以下の内容が論理的に記載されていれば加点する。

1. 鎮静度の指標
2. 脳波をモニタリングして解析することで数値化することで、麻酔深度の調整を可能にする。数値だけでなく脳波の波形も重要であり、さらにBISの値に影響する因子（アーチファクト・吸入麻酔薬等）まで応えるとさらに評価が高くなる。
3. 術中覚醒、覚醒遅延、術後せん妄を予防する

　40未満：深い鎮静状態
　40～60：外科手術中の適切な催眠状態
　70～80：覚醒し得るほどの中程度の鎮静状態
　80～90：浅～中程度の鎮静状態
　90以上：覚醒状態

［設問２］

以下の項目が論理的に記載されていれば加点する。

1. 頭痛
2. 徐脈
3. 心停止
4. 高位脊髄くも膜下麻酔
5. 全脊髄くも膜下麻酔
6. 脊髄損傷
7. 低血圧

8. 脳神経損傷
9. 硬膜下血腫